

個別の指導計画の作成過程と教育課程への反映

岸本 啓吉（東京都立港養護学校）
 矢野 勝義（東京都立港養護学校）
 堀口 勉（東京都立港養護学校）
 平野 信治（東京都立港養護学校）
 長沼 潤子（東京都立港養護学校）
 佐藤 眞（東京都立港養護学校）

はじめに

本校中学部では、「保護者のニーズを汲み取ること」、「個別指導計画を立案し、何を大切に生活するのかを保護者と確認すること」が必要なことであり、これからもさらに検討しながら進めていきたいと考えている。各学年多少異なりはあるものの保護者のニーズを聞き取るアンケートを実施し、個別の指導計画を作成し、保護者会・家庭訪問・個人面

談で提示しながら意見交換と保護者との意思の疎通を図り、丁寧にやりとりをしている。保護者の意見を生かした個別の指導計画が全校的に実施できているわけではないが、保護者や本人の要望等を取り入れた実践は進みつつある。

中学部で実施されている個別の指導計画が実際どのような過程を踏まえて作成されているのかを以下説明していく。

1. 個別指導計画の作成と活用の実際について

情報収集
1. 親のニーズをアンケートで聞く 2. 出身校訪問 3. 必要に応じて、主治医や療育期間訪問 （4・5月中）
実態把握
1. 家庭環境（家庭訪問カード、生活指導カード等） ・学校生活表 ・生徒の意欲や保護者のニーズを含めて作成する。 （4・5月中）
年間指導計画の作成
1. 学年ケース会（各学期2回ずつ） ケース担当が作成した個別指導計画を学年会で検討 2. 保護者会（家庭訪問） 5月家庭訪問 保護者の意見や賛同を得て個別指導計画完成 （2・3学期それぞれ1回ずつ） 3. 学年ケース会 個別面談の様子を学年会で報告 （各学期1回ずつ）
個別指導計画の実践
1. 個別の課題を授業や行事に取り入れる 通年個別指導計画の課題の抜粋や課題分析を行い、各授業や行事に個別計画の課題設定をする

<p>指導を行う。</p> <p>2. 連絡帳、授業記録をとる。 (通年)</p>
<p>個別指導計画の評価</p> <p>1. 各授業・行事の評価 授業で生徒を指導した教師や授業記録から課題の達成度や授業の様子(関心、意欲、態度)を評価する。</p> <p>2. 個別指導計画の評価を記入 ケース担任が個別指導計画の学期評価をまとめる。</p> <p>3. 学年ケース会 評価の共通理解を図り、来学期の課題を話し合う。 (各学期2回ずつ)</p> <p>4. 個人面談 保護者に生徒の学習の様子や成長の様子を伝える。 (各学期1回) 課題の評価を共通確認する。 来学期の目標を話し合う。</p> <p>5. 学年会 個別面談の報告 (各学期1回)</p>

2. 親と個別指導計画との関わりについて

本校では、新1年生以外は、3月中旬に保護者のニーズを学校への要望としてのアンケートで聞くことにしている。(アンケート用紙例については次頁に掲載)それは、まず学習面、生活面、その他、学校で取り組んでほしいことは何か、学校の生活と関連する面で配膳の手伝いなど家庭生活面で伸したいところや特に困っていることは何かなど聞くことにしている。そしてこれらの内容とともに家庭生活表や学校生活表を作成している。

それから4月に担任が個別指導計画を作成し、学年会で検討している。その後5月の家庭訪問で親の要望の入った個別指導計画を提示し、親の意見を聞いている。内容に親が同意すれば、個別指導計画を渡している。もし、不同意であれば、その部分を学校に持って帰り、学年会で検討することになっている。検討の結果を親と話し合い、同意された内容から指導を始めている。

例えば、親の要望が学習面では、4までの数字と実物の対応であれば、学校と家庭での課題を分析し、各授業や日課などの中で個別指導計画の課題設定を行っている。学校では、個別課題学習や係活動、給食準備、作業学習などの中で1対1対応の学習を絵や実物と数とを対応させる学習を進め手いる。家庭では、買い物などで写真と一致させて品物を選び取ることや食器を配膳するなど家庭の中で4までの実物と数とを対応させるような活動を進めている。

これらの学習の経過を個別の授業記録に取り、親とは連絡帳などで知らせ合うようにしている。また、学習の成果や結果などは授業記録からの課題達成度や授業観察から評価し、個別指導計画に記入し、学年会で評価の共通理解を図っている。親には、学習の様子を成果、成長の様子などを学期末の保護者会や個人面談などで伝え、共通確認を図り、来学期の目標を話し合っている。

保護者へのアンケートについて

中学部 2 年保護者各位

× × × × . 4 .

中学部 年担任

家庭からの要望についてのアンケートのお願い

中学部で 1 年間で過ごし、1 日の生活のリズムをつむことができたのではないかと思います。これから 1 年も学校生活の中に好ことややりたいこと、楽しさを見つけ充実したものになるよう進めていきたいと考えています。つきましては、以下の項目についての要望をお聞かせください。

生徒名 ()

1. 学校で取り組んでほしいことをなるべく的にお書き下さい。

「学習面」

「生活面（生活面・余暇・コミュニケーション等）」

「その他（身体面・医療的配慮等何でも）」

2. 好きなこと・嫌いなことをお書き下さい。
3. 家庭の中で伸ばしていきたいことをお書き下さい。
4. 現在困っていることがありましたら具体的にお書き下さい。
(解決の手立てを一緒に考えていきます)

1. 将来について希望や心配なことがありましたらお書き下さい。

3. 個別指導計画の現状と今後の課題

個別指導計画については、書式の統一はされておらず学年それぞれで違っている。そのことについては、以下の事例で掲載されている個別指導計画を参照してもらえばわかる通りである。また、個別指導計画の捉え方として以前までは、1 対 1 関係で一人の生徒に一人の教員が対応していた時もあったが、何度も検討することにより現在はケース担任として個別指導計画の作成はそのケース担任が作るとしても実際の指導については、クラス・学年全体で行っ

ていくという方向に変わってきている。そのためにも個別指導計画作成の際に学年会を通して内容を検討し、別の見方による指導の意見を話し合ったり生徒の指導に当たった確認も全体でできるようにしている。さらに学期末での評価も同じように学年会で確認しながら、個別面談に向けていかれるようにしている。このことは、次年度にケース担任が替わった際の引き継ぎにも有効になってくるものと考え

今後の課題としても教育課程検討委員会や研究会

を通じていろいろと検討されているが、現在の課題は、書式の統一化である。いままでの個別指導計画については、生徒の実態について述べている項目を作っていないのでそれを追加し形式を変えながら対応していきたいことを検討している。また評価についても現在、通知表と個別指導計画との2本立てで行われている。2つの評価を出すことはやはり個別指導計画を生かすことに結びついていないことにも考えられることであり、個別指導計画の評価をそのまま最終的に保護者に伝えることがいいのではという意見も出ている。ただし、評価に生かす場合、これまで出されていた教科項目が個別指導計画の中に出されていないのでそれを新しく追加していくことも必要になってくることも考えられる。

親のニーズについては、年々多く出される傾向にある。このことは生徒に対する親の期待感が強くなってきていることとニーズを取り入れた指導を強く

望むあらわれかと思われる。ただニーズに関してもすぐにそれを受け入れていかれるものと本人の実態を捉えた上で難しいものがある。受け入れていかれるものについては、取り組みの手立てをよく考え、学校で指導しながらも家庭でも同じように指導していかれるように工夫することも大切である。また、難しいものに関してもよく保護者と話し合うことも大事であり、ただできないというのではなく、できることから入っていくように方向を変えることも大切である。さらに事例でも述べているが、保護者がかなり障害児教育について理解しているということから新しい指導方法を要求してくるケースもでてきている。ただ、障害も個々に違い、特に身辺自立をめざす生徒も多いので全部を受け入れることができないのでそのあたりは、よく保護者に説明をしていかなければならない。

・事例1

1. 中学部実態表

生徒名	A	
障害名	ダウン氏症候群	
教育歴 環境歴	都内某心障学級卒業後、平成 年中学部入学	
社会性 ・ コミュ ニケー ション 面	生徒の 実態	<ul style="list-style-type: none"> ・とても穏やかで動作が緩慢である。 ・一語ずつの発音で何とか、簡単な意思表示ができる。 ・ひらがなの読み書きができるので筆談は可である。 ・友達をつくらうとする気持ちが強くあり、関わり方が上手である。
	保護者の ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり発語すること、発語を働けかけることを特に強く望んでいる。 ・友達との関わり合いや友人関係の広がりについても、できるだけ多く場面を設けることを望んでいる。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実態及びニーズの欄に同じであるが大人らしく物静かな性格をいろいろな学習の場面で考慮して本人のペースに合わせた取り組みをする。
生活面	生徒の 実態	<ul style="list-style-type: none"> ・生活のすべてがスローペースで働きかけがないと課題に取りかかれなことが多。 ・排尿・排便は、声をかけないと我慢してしまったりすることがある。 ・排尿も洋式トイレでないとしな。便座に座らないので汚してしまうことがある。
	保護者の ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・本人のスローペースを気にして、声がけや働きかけをできるだけ多く、タイミングを見て取り組むことを望んでいる。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服のたたみや前後の注意など学校と家庭で統一したやり方で指導することを望んでいる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・排尿を立ててできるようにする。 ・本人のペースを尊重することを基本に食事や着脱などでポイントになる事柄については時間をかけて取り組ませる。 ・排尿、トイレの使用について繰り返し指導をする。
身体・健康面	生徒の実態	<p>身体的には問題ないが、便秘気味で日常的にやや運動不足である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やや肥満傾向にあり、上体に比べて下半身が弱い。 ・咀嚼力が弱く、肉・野菜など小さく切らないと食べきれないことが多い。
身体・健康面	保護者のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の量は、少なめにして食べきれる分を盛りつけていくことを望んでいる。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の体操マラソンや昼休みなどでできるだけ体を動かすように働きかける。 ・遊びの中から運動経験も増やしていく。
学習面	生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・読み書きについては、かなり力をもっている。 ・ひらがなは、すべてできる。 ・カタカナは、一部表が必要。 ・計算は、足す1なら暗算でできる。繰り上がるがあると少し間違えることがあるが、やり直しすると正解できる。 ・100までの数が数えられる。 ・音楽やグループの授業では意欲的な学習参加が顕著に見られる。 ・作業などやり方の示範を見て、習得することができる。
	保護者のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対しての要望が強く、計算や文字の読み書きなど毎日の取り組みを望んでいる。 ・公文式や家庭教師をつけて学習に取り組んでいたこともある。 ・プログラムを作成して、計画的な取り組みを期待している。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、学習予定のプリント・計算のプリント・数字のプリントを各1枚ずつ個別課題の時間に取り組ませている。確かめを必ずやり、間違いについて気付かせる。 ・音楽やグループの授業など意欲的な学習参加を賞賛し、積極性を引き出す指導に重点を置く。 ・体育などで苦手な運動や動きについては、できることを確実にすることに重点を置き、運動経験の幅を広げていく。
その他	生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・係り活動など毎日の繰り返しや繰り返し頻度の高い事柄についての理解が早い。例えば、予定のカード貼りで移動教室の事前学習の時間を学年集会のカードで表示したり、2時間続きの授業は、カードのマスをも2つにするなど自分なりに考えて発表することができる。
	保護者のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の行動の特性を理解し、いろいろな経験を積み重ねて欲しいと望んでいる。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・担任との信頼関係が深くなり、安心して学習や行事に参加し持っている力を発揮できる場面が多くなってきた。 ・自分からのリクエストを多くだし、自信を深めていくように配慮する。

2. 個別指導計画

中1前期個別指導計画

保護者保存

中学部1年 生徒氏名(A)

記入者 ()

日常生活について

(目標)

衣服の着脱：衣服を後ろ前に着ることなどが時々見られる。声がけで注意しながら確実に出来るようにしていく。

排泄：昼食後、下校前の定時排泄に取り組み、次第に自分から行けるようにする。

食事：時間はかかるが、ほぼ全量食べられる。前半は練習のため箸を使い、時間を見て食事量確保のため、スプーン・フォークを利用して食べるようにする。

(評価)

衣服の着脱：後ろ前になることがまだ見られる。服の襟についているダグを意識させるように指導していく。

排泄：定時排泄に取り組んでいるが、拒否することもある。

学習面について

(目標)

朝の個別課題で「今日の予定」を書く課題に取り組んでいる。その日の授業の予定と実際の授業を関連させ理解出来るようにする。一日の予定を意識させ、見通しを持たせる。

言語：様々な場面でその場に応じた挨拶などの会話を多くし、発語する機会を多く持たせる。

文字：なぞり書き、模倣などプリント学習を中心に文字を書く機会を多く持たせる。

(評価)

「数量」「朝の予定」のプリントは定着してきている。

言語：朝バスを降りてきて「おはよう」と自分から言えることも多くなってきた。今後も継続して移動していく。

社会性について

(目標)

いろいろな場面で適切な行動がとれるように経験を広げる。学校生活の中の区切りを理解し、見通しを立てて円滑な学校生活を送れるようにする。

(評価)

授業中にふざけてしまうことも時々見られる。休み時間と授業の切り替えが出来るよう指導していく。

3. 授業とのむすびつき

別指導 授業との	個別指導計画からの課題（ニーズも含む）	授業とのむすびつき （様子）
日常生活 の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・排尿のサインを出すこと。 ・小便器で排尿すること。 ・衣服の前後、表裏の区分をつけること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小便器での排尿は、クリアできた。 ・サインは、継続指導が必要。マークなど指導の手立てを工夫する。
個別学習	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント学習により、読み書き・計算の力を維持・向上していく。 ・漢字や暗算など段階的・系統的に学習内容を変更し、積み上げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の内容は定着してきている。内容の変更時期を検討して、継続して学習していく。
体操・マ ラソン・ 体育	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の運動量を確保するための目標を決めていくこと。 ・いろいろな運動経験をすることにより、運動技能の習得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人のペースで取り組んでいる。 ・運動することの楽しみを知る。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム、合奏などいろいろな音楽への体験を増やしていく。 ・テープ操作などを理解して、趣味や余暇の活用につなげていく。・自分なりの表現を十分出していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌や活動が始まると、手を叩いたり、リズムを取ったり授業への意欲的な参加の姿勢が見られる。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・切る、貼る、塗る等手を使った活動に慣れ親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんで活動している。 ・自分なりのイメージを持って作品づくりをしている。
作業	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割分担を理解し、活動への見通しを持つ。態度面、技能面ともに向上を目指す。 ・活動のつながりを理解し、作業量の安定を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ることは、確実にする。 ・自分の活動に必要な物を用意している。
調理	<ul style="list-style-type: none"> ・調理器具の安全な取り扱いについて理解し、一連の活動の流れや手順を理解していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の活動については、最後までやりきっている。 ・切り方や大きさも次第に一定してきている。
グループ 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わりを持たせる。 ・自分から活動することを増やすようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容もよくわかっていて声がけをすると積極的に活動する。 ・友達にもたくさん関わろうという姿勢がみられる。
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の係り活動をきちんとこなし、クラスの一員としての気持ちを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定係りの活動は完璧にこなしている。 ・朝の会などとても楽しみに参加して、クラスの雰囲気盛り上げている。
総合学習 の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の趣味や余暇活動につなげていけるように思い切り楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を広げて、友達とのゲームを楽しんでいる。

4. ニーズに関わる保護者との対応の問題点と方策

(1) 経過説明

学部縦割りの授業である「グループ」学習が開始されるのに伴い、保護者宛に各グループの授業内容のあらましと生徒名を載せたプリントを配布した直後に、或る保護者から苦情の連絡を受けた。苦情の内容は、授業内容が自分の子供に合っていないのではないかと、もう少し高度な内容を取り上げて欲しいとのことであった。連絡帳で伝えられて来たその苦情からは、かなり強い抗議の意思が感じられた。

(2) 対応

グループの授業は縦割りなので、担任だけでなく授業の担当者とも打ち合わせが必要である。打ち合わせの結果、保護者との面談を担当が持ち十分に保護者の話を聴いて、問題点を整理して検討していくようになった。面談の結果分かってきたことは、授業内容のあらましに「・・・手遊び歌等」と書いてあったことが腑に落ちないというのである。その生徒は、以前から読み書きや計算のドリル、公文式での学習の経験を積んでおり、かなり高い学習能力の持ち主である。保護者の期待も、今まで培ってきた学習能力を伸ばすことにある、というのである。一方で、

その生徒はとても明るく、にぎやかな授業が大好きであり実態的にもそのグループの授業内容に合っているし、何より本人はとても意欲的に授業に参加しているのである。保護者に授業参観してもらい、いきいきと学習している様子を見学していただいた。以上の対応により、事なきを得たが、このことを通して問題点を整理してみる。

(3) 問題点の整理

読み書き・計算の学習は、毎日の積み重ねが大切であるとの見解で一致点を見だし、毎日のプリント学習を約束した。保護者サイドでは、家庭訪問の際の「家庭からの要望アンケート」で要望し、話しもしてあるのに「なぜ学校は取り組んでくれないのか」という苛立ちがあった、というのである。個別指導計画を立てる際の資料である「家庭からの要望アンケート」がしっかり担任・学校の中で把握できていなかったことが挙げられる。

保護者は、グループ学習の時に読み書き等の学習をするものだ、と思いこんでいた。いろいろな機会を設けて学部の授業や行事については説明をしてきているが、今一つ浸透していないようである。授業内容や学校行事について、より丁寧な説明の場の提供も検討したい。

・事例2

1. 中学部実態表

生徒名	B	
障害名	自閉症 愛の手帳：2度	
教育歴 環境歴	生後10ヶ月から2歳5ヶ月までアメリカで過ごす。 2歳10ヶ月から「 研究所(××学園・ 学園)」に通い始め現在も通所中である。 1年間の就学猶予を経て港養護学校小学部に入学。現在は同校の中学部1年に在籍	
社会性 ・ コミュニ ケーショ ン面	生徒の 実態	<ul style="list-style-type: none"> ・集団参加が苦手。 ・洋服についてのこだわりから着替えを頻繁に行う事もある。その際人前でも平気で裸になる事もある。 ・情緒的に不安定になり、座り込んだり急に泣き出したりパニックをおこす事がある。 ・「いや」「ちょうだい」などの簡単な発語が見られる。
	保護者の ニーズ	・社会的にいけない事、おかしい事をした場合には、本人が納得するまで時間をかけて待つ欲しい。(頭ごなしに怒ったりはして欲しくない。)
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちや要求を言葉などでスムーズに伝え合うことができるようにする。 ・やってはいけないことがわかり、意識出来るようにする。 ・いろいろな人と関わり楽しめる場面を増やす。

生活面	生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・着替えについては細かい所を除けばほぼ一人で取り組める。 ・排泄では尿を我慢する傾向にあり、声を掛けないとトイレに行けない。 ・食事ではかなりの偏食があり、好きな物でないと食べない。
	保護者のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・着替えのこだわりを減らしたい。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・着替えの際に丁寧にたたむ、表脱ぎといった細かい点にも注意して行えるようにする。 ・食べられる食品の数を増やす。
身体・健康面	生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・布団アレルギーから喘息になることがある。 ・肥満傾向にある。 ・体の動きについては特に問題はない。
	保護者のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・体の動きについては、訓練というより興味のある所から持久力などが除々についていけばと思います。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の10分間走止まらずに取り組めるようにする。
学習面	生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・一定時間集中して学習に取り組めるようになってきている。 ・手指の操作性は高く、ビーズ通しや簡単なパズルなどに取り組むことができる。 ・1対1対応は正確さが欠け、現在練習中である。
	保護者のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の能力にあったものを興味をひくように教えてもらいたい。 ・簡単な言葉が出てはいるが、物の名前は意識できていないので「物には名前がある」ということがわかってもらいたい。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・物の名前が意識できるようにする。(言葉との対応) ・はっきりと言葉を発音する機会を増やし、意識を高めるようにする。 ・1対1の対応が確実にできるようにする。

2. 個別指導計画

中1 前期個別指導計画 保護者保存

中学部1年
生徒氏名(B)
作成日 H×. 5月
評価 H×. 9月

日常生活について

(目標)

着脱：着替えの時間になったら気持ちを向けてスムーズにとりかかる。

排泄：下校前にトイレをすますようにする。

食事：お代わりの要求を言葉(ちょうだい)で伝える。
後かたづけをきちんと自分で行う。

手洗い：外遊びの後手を洗う習慣をつける。

(評価)

着脱：動きが止まる事もあるが、声かけによって着替えはスムーズに取り組めた。

排泄：本人の意思に任せることを基本にしたが、間隔が長いので給食前と下校前には行くようにし、本人も納得している。

食事：「ちょうだい」は促されると言葉で伝えることができる。後片づけはだいぶ習慣化し、声かけで最後までできるようになってきている。

手洗い：自分からはまだ難しいが声かけでスムーズに取り組めるようになった。

学習面について

(目標)

文字：物の名前が意識できるようにする。(言葉との対応)

数：1対1対応が確実にできるようにする。

- ・興味を広げ自分から課題に取り組める場面を増やす。集中時間を延ばす。
- ・生活の流れに見通しを持ち、より気持ちを安定させてスムーズに行動できるようにする。

(評価)

・課題にはスムーズに取り組め一定時間気持ちを向けて集中できることが多くなっている。パズルやはめ板な少し迷ってできた時は笑顔で達成感を示すことも多い。

- ・ 1対1対応は牛乳の配膳など実際の場面で力を発揮できるようにしていきたい。絵カードを用いた学習はあまりできなかった。今後の課題としたい。
- ・ 中学部の生活に慣れるに従いスムーズに行動できることができるようになった。

社会性について

(目標)

集団参加：いろいろな人と関わり、大きな集団でも落ち着いて参加できるようにする。

行事：楽しめる場面を増やし、なるべくみんなと一緒に参加できるようにする。

コミュニケーション：言葉でのやりとりを増やす。

人との関わり：やってはいけないことがわかる。(他傷 行為など)

(評価)

・ プールやグループなど担任以外の教員とも楽しく関わる機会が増えてきている。集会にも落ち着いて参加できることが多くなってきた。

・ 発語はまだ少ないが教員の言葉かけをよく聞いて納得して行動できることが増えてきている。

・ 回数は減ったがひっかきなどはまだ見られる。引き続き注意して対応したい。

3. 授業とのむすびつき

	個別指導計画からの課題(ニーズも含む)	授業との結びつき
日常生活の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丁寧に着替えができる。 ・ 定時にトイレに行く。 ・ 食べられる食品の数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丁寧にたたむ、表脱ぎができるように声かけをしている。 ・ 我慢しないように時間で声かけ、自分からトイレに向かえるようにしている。 ・ 食わず嫌いな所があるため、なるべく一口はたべるようにしてその味によって食べられる物は食べるようにしている。
個別学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1対1対応が正確にできる。 ・ 物の名前が意識できるようになる。 ・ はっきりと発音する機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別学習で学んだ内容が実際の場で活用できることをねらって、給食の配膳時にトレーの上に1つずつ牛乳びんを置くようにしている。 ・ いろんな場面でいろんな声かけをして、自分で絵カードを選んだりして具体物とのマッチングができるように心がけている。 ・ おかわりを「ちょうだい」など本人の興味があることからその場にあった発語が行えるように言葉かけをして口の動きを真似させている。

体操・マラソン・体育	・止まらずに10分間走る。(歩く)	・1人だと止まってしまうことが多いため、伴走をするようにして最低でも立ち止まらないように声かけをするようにしている。
音楽	・大きい集団の中でもみんなと一緒に音楽活動ができる。	・長いすではなく一人掛けのいすを用意し、集団の中に座って参加できるように配慮している。
美術	・色々な材料や道具に触れ、造形活動を経験する。	・鋏の使い方は上手になってきた。粘土など手の汚れる活動は嫌がるが、少しずつ取り組めるようになってきている。
作業	・違うクラスの教員とも落ち着いて作業できる。 ・活動の見通しを持って、一工程を責任持って担う。	・時々気持ちが崩れることもあるが、自分の活動する場所がわかったり、自主的にパン生地を伸ばしはじめたりと見通しを持てる場面も増えてきている。
調理	・道具の使い方を覚え、料理に対する興味や楽しさを知る。	・食材をちぎる活動から包丁を使って切れるようになったり、意欲的に取り組んでいる。
学級活動	・クラスの一員としてみんなと一緒に楽しく参加する。	・外出、ゲーム、お茶会などが中心であるが、集団を意識して参加できる場面も増えてきている。
総合学習の時間	・余暇活動の幅を広げる。	・ブランコが好きでよく乗っているが、そればかりではなくいろんな遊びを経験できるように誘うようにしている。

4. ニーズに関わる保護者との対応の問題点と方策

(1) 問題点

学校生活の色々な場面で保護者からは「ゆったりした中で、やる気があれば…」にして欲しい。「絶対に無理にさせることはやめて欲しい」という要望がきている。それに反した本人への指導があると、連絡帳やお手紙で要望というよりは親の思いが訴えられてくる。

(2) 方策

担任としては本生徒が自閉症ということもあり、本人のペースに合わせて取り組んでいくように配慮をするようにしているが、他傷行為・交差点での座り込みといった安全面での問題・人前で裸になるよ

うな社会的におかしいことなどをした場合には、その場で注意や指導をするようにしていきたいと考えている。しかし保護者からは「友達をたたいてしまうのであれば、その友達を少し距離を離して」とか「自分から立ち上がるまで待つ」など、あくまでも本人の行為は容認で周囲が合わせていって欲しいといった部分でズレが生じてきている。現在学校ではたいへん落ち着いて過ごせているため、保護者からの細かな要望はないが、いつまでも周りが本生徒に合わせてくれるというのは考えにくい。卒業後の進路も含めて何が本人にとって大切なのか、どのように接していくことが大切なのか、今後も保護者としてしっかり話し合いをする事が必要であると考えている。

・事例 3

1. 中学部実態表

生徒名	C	
障害名	知的障害 水頭症 てんかん	
教育歴 環境歴	私立A養護学校卒業 両親と本人の3人家族	
社会性 ・ コミュ ニケー ション 面	生徒の 実態	<ul style="list-style-type: none"> ・指示されたことはほとんど理解できるが、受け入れが難しいこともある ・場面の切り替えに時間がかかることが多い ・思いと異なる場合に止まってしまったり、自傷行為がでることが多い ・この人とはこのやりとりをしたいと決まったパターンがある
	保護者の ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちがためらわずに伝えられるといい ・NOの表現を出せるといい ・つねるなどの行為に至る本人の気持ちを理解した上でいけないことだと教えて欲しい ・人と関わる気持ちが先走らないように ・依頼や提案が出来るといい ・挨拶が交わせるようになって欲しい
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・NOの代わりに言葉「休憩」を教えることで一呼吸置き短い見通しを持たせていく ・やりとりをする中で「やってみよう」とう気持ちを持つ ・友人とのプラスの関わり方を学ぶ ・場面ごとの決まったやりとりを持つことで、とぎれたときにも短いやりとりで見通しをもつ
生活面	生徒の 実態	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱はできるが、細かい部分や後始末はできない ・脱いだ物をかごに入れることはできる ・食事時には汁物が牛乳を飲むようにしている ・食事時の姿勢はよくない
	保護者の ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が納得行くまで説明し強制したりせかせかせたりしないで欲しい ・牛乳など水分はとらせて欲しい ・好きなことはさせて欲しい ・がんばることは否定的
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ない時には「やってください」と依頼する ・かごを両手で持つ ・食事の時に左手をテーブルにのせる ・水分摂取に心がける
身体 ・ 健康面	生徒の 実態	<ul style="list-style-type: none"> ・運動制限がある ・内反足・左麻痺あり ・階段など怖がる

	保護者の ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・発作が減った分気分の細かいムラがある ・体力がないので体調には十分配慮して欲しい ・周りに合わせてハイテンションになりすぎないようにコントロールすることを覚えて欲しい
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいことを目当てに身軽に動く ・体育やマラソンに楽しいイメージを持つ ・声掛けで交互足で階段を下りる
学習面	生徒の 実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなは拾い読みが出来る ・言葉のイメージから連想してやりとりを楽しむ ・10までの数唱が出来る ・音楽：大好きな活動で大きな声で歌ったり、リズムよく楽器を流すことが出来る ・作業：2年目の活動のため、見通しを持って参加している。 ・係り活動：台拭き係は給食が楽しみなこともありやる気がある ・やることがわかると概ねどの活動にも積極的に参加する
	保護者の ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・持続力がもう少し欲しい気がする ・手伝いは喜んでやってくれることが増えた「ありがとう」に対して「どういたしまして」と返してくることもある
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・手や体を使って活動しイメージだけでなく「できた」実感を持つ ・作業や係り活動等継続して行うことで「できる」という意識と自信を持つ ・好きな活動ではのびのびと楽しみみんなをリードする ・読める文字を増やす ・物語の次の展開を覚え言葉で表現することを楽しむ
その他 余暇活 動	生徒の 実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオや音楽が好き ・トランポリン・ブランコも好き ・本人の受け入れの幅が広がってきたため他傷・自傷ともに減ってきている
問題行 動	保護者の ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンやコンピューターに興味を持ち始めている ・歌や音楽など本人の好きなことで学校生活を楽しく過ごさせて欲しい ・問題行動に関しては蜘蛛突いやなことがあると連鎖的に増えていくのでわかって欲しい
	課題	

2. 個別指導計画

保護者保存用

平成×年11月5日

生徒名(C)

記入者()

個別指導計画中学部2年後期用

<p>アンケートなどで調査した保護者の要望を入れる。 要望を常に心がけるため 学習面：パソコン・コンピューターに興味が出てきた 生活面：気持ちがためらわずに伝えられるといい (特にNOの表現) 行動面：発作が減った分気分の細かいむらがある 人と関わる気持ちが先走りすぎないように</p>
<p>目標は 達成可能で生徒本人が目標を意識して、意欲的に取り組めるもの 生活に役立ち、生活が豊かになるもの 指導の手だては 教員間や保護者と連携を図り一貫して行う 日々の援助者の態度で生徒に課題を意識させていく</p>
<p>目標1：自分の気持ちをたくさん伝えよう 目標1達成に向けて (1) ちょっと疲れてきたときには「休憩ーおイスで」のやりとりで一休みしやすくする (2) 一息ついた後に[YES/NO]の意志を伝える (3) 難しいときは「やってください<はい>」の依頼</p>
<p>疲れてくると表情が曇り友だちのざわつきもうるさく聞こえがちのようです。「やりたくない」とは言い出しにくいので「休憩する?」というこちらからの声かけで「休憩はおいすで」と[NO]の代わりに表現で一息つけるといいと思います。一息つきみんなの様子を見て見通しを持ったところで改めて「YES/NO」の確認をすると「やる(もしくはやらない)」と言いやすいようです。(分かっている「終わり」にするのと、疲れて分かりづらくなって「終わり」にするのでは気分が全く違います)また(3)は今もしていますが気軽に言えると今度は「今は自でするからいい」などの言葉に広がっていくといいと思います。</p>
<p>目標2：大人のマナーを意識して気持ちよくすごそう目標2達成に向けて (1) 食事の時には前を向いて食べる (2) 毎日の生活の中で楽しみを見つけて身軽に 行動しよう</p>
<p>食事の時に上手にスプーンフォークを使っているのですが机に対して斜めに座ってい</p>

るので落としてしまうこともあります。「机に左手を置く」事で身体が前を向き食べやすくなります。食事以外でも着替えのカゴを両手で持つ、作業の時に両手で生地を伸ばすなど、手を使って活動することで頭の中のイメージと実体験が結びついていくと「やったらできた」実感が持てるのではないかと考えます。昨年も取り組んでいましたが、自分のことはなるべく自分で行うことで「自分のペース」が作りやすくなれば良いと思います。

後期に向けて特に目標は変えていません。いろいろな教員・友達との間でもクラスの中と同じように過ごせるようになると思います。

3. 授業との結びつき

	個別指導計画からの課題(ニーズ含む)	授業との結びつき
日常生活の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・かごを両手で持つ ・出来ないところは依頼する ・水分摂取 ・食事時の姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうやって持つの」「こうやって」とかごを持つ時のフレーズを決めると自分で持ちやすいように工夫している ・着替えの時だけでなく給食の配膳などでも「やって下さい」「ありがとう」と言葉で伝えられるようになった
自立活動 個別学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 	参加していない
自立活動 グループ 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の次の展開を覚え言葉での表現を楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の場面のセリフと伝えたり、予想通りに展開することで積極的に活動に参加している。
体操・ マラソン ・体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体力がないので体調には十分配慮して欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど体操・マラソンには参加していない ・ストレッチを主としたグループに入っている
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな活動ではのびのびと楽しみみんなをリードする 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクを持って大きな声で歌ったり、踊ったり積極的に参加している
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・手を使って活動しイメージと実体験の一致 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな色の名前を言って選んだり、感触の苦手な粘土などにも自分から取り組むようになった。
作業	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持って活動する ・担任以外の教員ともやりとりをして参加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の係や遅疑に必要な道具などよく理解して参加している。 ・自分の思いと多少異なるやりとりでも活動の理解を手がかりにして気持ちを立て直す毎ができてきた。
調理	<ul style="list-style-type: none"> ・手を使って活動し実体験とイメージを一致させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・皮むきや包丁など教員と一緒に活動して、「やった」と実感している。
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に活動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど参加していないが、来たときには道具のイメージを持って少しずつ体験している。

総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を広げる ・友達と一緒に活動する ・目的を持ち歩行する 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを実際に動かし手、楽しむ。友達と順番に希望を伝えるのも受け入れられる。 ・次のことを細かく伝えることで気分良く学校まで歩くことができた。何度か参加する内に自分で次の見通しを持ち積極的に歩くようになった。
-----------	--	---

4. ニーズに関わる保護者との対応の問題点と方策

(1) 保護者とコミュニケーションをとることの大切さ

ケースに限らず保護者と情報交換をすることは大切に考えているが、特に保護者の基本的なスタンスについて知っておく必要があると感じる。

ケースの場合は「何が出来るようになるためにがんばることに対して否定的」である。ケースを育ててきた日々の中で得た現在での結論ととらえ、このことをふまえて話し合いに望むことが何よりも大切であると実感している。

授業の説明も「がんばるためにある」のではないことを理解していただき、思わず参加したくなるような場の設定やケース本人が見通しを持ちやすいような物となるように心がけている。

個別指導計画の作成に当たっては保護者のニーズである「気持ちを伝えられるように」を大きな目標の一つとして取り組むこととした。家庭でも学校生活でも自分の希望に添わない状況になると黙って動かなくなってしまうたり、自傷や他傷行為をしてし

まったりと活動が中断してしまうことが多かった。小学校時代ははその気持ちも大切にしてきたようだが、先に「NO」と伝えることで気持ちを立て直すことが出来るのではないかと考え取り組んでいる。2つ目の目標としては目や言葉での情報が先行しているので体験していくことでイメージと活動の一致をさせ、「できる」ことを実感させていくことをねらっている。保護者に伝える場合は上述のようなスタンスであるため、かみ砕き理解しやすい表現に心がけている。その自信は目標1である自分を表現することにつながっていくと考えている。

基本的にはケースの場合、保護者が希望していることは「家や一緒に外出したときに困らない状況であってほしい」「好きな活動で楽しい毎日を送って欲しい」とまとめることが出来ると思う。そのために学校生活の中で何が提供できるかを伝え、「がんばらなくても、状況を設定することで本人が気づき工夫していく」ことこそが学校生活で学んで欲しいことなのだと言うことを保護者に理解していただけるように伝えていきたい。

. 事例4

1. 中学部実態表

生徒名	D	
障害名	知的障害、自閉症	
教育歴	都内某小学校身障学級卒業	
環境歴	両親と姉と本人の4人家族	
社会性 ・ コミュニケーショ ン面	生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・指示されたことには、ほとんど理解して受け入れることができるが、習慣化が必要な中には、同じことを何度も声がけすること多い。 ・トイレに行きたい時は、自分でサインを出したりする。 ・自分の興味を示したカードや写真を見せてその名前を言うことを要求することもある。
	保護者のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・カード・写真の視覚的な物を利用してのやりとりをお願いしたい。 ・自分からの意志表示例えば「僕は～がしたい」の意思表示ができるようにして欲しい。 ・スケジュール表を作成して見通しを持って過ごせるようにしたい。

	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・声がけで動けることも増やす。 ・自分でやりたいことをサインやカード等を使って相手に伝えられるようにする。 ・自分の要求を伝える相手を増やすようにする。
生活面	生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱や脱いだ物のたたみは一人で行えるが、袋に入れての片づけは、介助が必要である。 ・食事については、偏食がある。白いままの御飯が食べられないのでふりかけ等を混ぜ合わせる。肉より魚が好きであるが徐々に食べる量も増えてきている。 ・排尿は、一人で行えるが、排便は学校ではない。
	保護者のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・排尿の際、ズボンのチャックをさげて行えるようにして欲しい。 ・偏食が強いので無理に食べさせなくていい。 ・靴のかかとをつぶさないで履けるようにし、シャツをズボンの中に入れるようにして欲しい。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・脱いだ衣服は、きちんとたたみ袋に入れてしまうことに慣れる。 ・給食で食べれる物を増やすことと食べれる量を少しずつ増やす。 ・排尿の時は、声がけでチャックを降ろさせるようにする。
身体 ・健康面	生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことは、好きではないので声がなければ、じっとしていることが多い。 ・マラソンでは、ほとんど歩くことが多く、グラウンドの端に沿って歩いている。 ・大きい声や音に敏感で聞こえないように耳元をふさぐ仕草が多い。 ・1年前に大きな発作を起こしているので十分に配慮が必要である。 ・病院での診察がまったく受けられないので体の状態をとらえたり、診療や検診を受けるのが難しい。
	保護者のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・運動面で無理強いさせないでほしい。 ・聴覚過敏のため音の大きく出るところから離してほしい。 ・大きな発作を起こしたので、病院・学校と連携して対応したい。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ走ることに慣れるように声がけしていくようにする。 ・体を動かす喜びを持たせる。 ・音に慣れていくことと無理な状態にならないように気をつける。
学習面	生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・字を読むことはできないが、なぞり書きで字を書くことはできる。 ・パズルは、とても好きである。 ・数の概念はないが、形で合わせることはできる。 ・物の名前は、食べ物と日常の生活で使っているものぐらいがわかり、それに合わせたカードを選ぶことができる。 ・パソコンのマウスの操作は、よく理解して簡単なソフトを使用することができる。

保護者のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・文字と数字の視写ができるようになって欲しい。 ・数の概念を学ばしたい。 ・色と色のマッチング・数と文字のマッチングを覚えさせたい。 ・パソコンの操作に慣れる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前の形を覚えることとなぞり書きで字を覚えていく。 ・カードを使いながらいろいろな物の名前を覚えていく。

2. 個別指導計画

中学部 2年 生徒名 (D)

記入者 ()

	親のニーズ	年間指導目標
身辺自立 着脱・食事 排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・ズボンを下げないで排泄する。 ・排便後の尻ふきをしっかりとる。 ・排泄後の衣類を整える。 ・偏食があるので無理強いさせない。 ・靴をつぶさないで履く。 ・シャツをズボンの中に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄の仕方を覚える。 ・排泄後の処理の仕方を覚える。 ・給食も少しずつ食べられるようにする。 ・声をかけられれば抵抗なく直しているので習慣づけるようにする。
健康・運動 移動・動作 体力・衛生 面	<ul style="list-style-type: none"> ・体育面・訓練面で無理強いさせない。 ・聴覚過敏のため配慮してほしい。(泣いている子供から離す・騒音・スピーカーの近くに寄せない。) ・昨年度末てんかん発作をおこしたので病院・学校と連携して対処したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走ることに慣れるようにする。 ・体を動かすことも覚えていく。 ・音にも慣れていくこと無理な状態にならないように気をつけていく。
家事 調理・掃除 洗濯	<ul style="list-style-type: none"> ・お風呂の水入れ。 ・配膳の手伝い ・父親帰宅時玄関のドアを開ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の配膳の仕方に慣れる。 ・調理の方法も覚えていく。
教科 言語・数量 認知	<ul style="list-style-type: none"> ・文字と数字の視写 (文字：名前、数字：1～5程度) ・数の概念を学ばせたい。(1～3ぐらい) ・物の名前を言ってもらいその物もしくはカードをとる。 ・色と色のマッチング・数・文字のマッチング ・パソコンを利用したパズル・文字及び数の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前の形を覚える。 ・文字・数字の模写を繰り返していく。 ・カードと物のマッチングを覚える。(食べ物・乗り物・友達・教員等) ・色と色のマッチングを覚える。(色カード、色と物のマッチング) ・パソコンソフトの活用をしながら操作
作業 態度・報告 自発性・技 術	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて作業をする。(落ち着いて作業ができるような作業環境を望む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙工班で作業工程を覚え一定時間落ち着いて取り組む。

術		
コミュニケーション 意思伝達理解	<ul style="list-style-type: none"> ・カード・写真などの視覚的手がかりを使ったコミュニケーションの仕方「ぼくは～したい」「ぼくは嫌だ」等の意思表示 ・カード・写真などの視覚的手がかりでスケジュールを作り本人から見通しを持って過ごさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カード・写真を利用しながらコミュニケーションをとれるようにする。 ・1日の流れを覚えながら行動に結びつけるようにする。
余暇活動 音楽・美術 趣味	<ul style="list-style-type: none"> ・余暇を過ごせる遊びを増やしたい。 ・童謡・ジグソーパズル自分の指さした物の名前を言ってもらうこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊びに慣れていく。
情緒 問題行動	<ul style="list-style-type: none"> ・パニックになったときは背中をさす等をしてじっくりとなだめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パニックに陥らないように自分から行動できることを増やす。
指導の要望	<ul style="list-style-type: none"> ・目から情報が入るので特性を生かした指導を希望する。 	<ul style="list-style-type: none"> カード・写真（食べ物乗り物・身のまわりのもの等）使用する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の認知にあった個別指導をしっかりとお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NCプログラムを活用し本人の状態をとらえながら指導する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・TEACCH PROGRAMを取り入れた指導を希望 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのプログラムも取り入れていきながら今後の指導に役立てていく。

3. 授業との結びつき

	個別指導計画からの課題（ニーズを含む）	授業との結びつき
日常生活の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ズボンのチャックの開け閉めを覚えるようにする。 ・給食を少しずつでも食べられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけでチャックの開け閉めに気をつけることによってやり方を覚えてきている。 ・ごはんの方もふりかけを混ぜあわせたりして工夫することにより食べれる量がふえてきている。
自立活動 個別課題	<ul style="list-style-type: none"> ・TEACCH PROGRAMの導入をしながらやり方を覚えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金のマッチングや絵と具体物のマッチング・名前のなぞり書きを行うことによってやり方を覚えてきている。また自分からやりたいことを選ばすようにもしている。
自立活動 グループ学習	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な物語の理解や発語を増やすようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の言葉を聞きながら発語できるようにしているが一語一語をまねていう姿勢が見られる。
体操・マラソン・体育	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけで少しずつ走れるようにする。 ・いろいろな動きに慣れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソンは歩くことが多く少しでも走れるように声かけをしている。

	る。	
音楽	・曲に合わせて発語ができるようにする。	・マイクを持つと口にくっつけながら声を出すことを楽しんでいる。
美術	・絵を描くことを楽しむようにする。 ・切る・塗る・貼るに慣れる。	・絵は顔を描くのが得意である。顔の部位はきちんと表すことができている。
作業	・手先を使うことを覚える。 ・作業工程を覚え繰り返して作業する。	・やり方を覚えると繰り返して作業をしている。 ・紙すきや紙の張り合わせを行っている。
調理	・手順を理解して調理器具の取り扱いを覚える。	・野菜の皮むきや包丁切りもよくできている。 ・興味や関心があって自分からやりたいという行動も見せる。
学級活動	・係活動に参加する。 ・掃除の仕方を覚える。	・給食のワゴン運びの仕事も定着してきている。 ・手が濡れることを気にするので雑巾がけを嫌っている。
総合的な学習の時間	・お店でのマナーやルールを守る。 ・楽しみたいことを増やしていく。	・自分の食べたいものを注文するまでは難しいがお金の受け渡しを練習している。

４．ニーズに関わる保護者との問題点と方策

(１) 経過説明

中学部入学時の際も本校に決定するまでぎりぎりの時間を保護者は費やしていた。最終的に本校を選んだ理由は、中・高が一緒になっているということで同じ場所で過ごすことが本人の気持ちの安定に結びつくということと個別指導計画が導入されている２点から判断したようである。また生徒が自閉症ということで保護者は早くから自閉症を専門とする機関（病院等）とのつながりが強く、個別での指導を強く望んでいることが多かった。前述の個別指導計画の中に親のニーズを載せてあるが、見ていただくとわかるようにとても細かい要望が出されている。そのニーズをもとに個別指導計画を作成し、親への提示をして説明したところ日常生活面よりも教科面の指導を強く希望し、特にTEACCH PROGRAMの活用を要望してきた。また、友達との関わりや広がりを持てるように伝えたが、保護者より必要がないのでこの指導目標の部分はいらないと拒否された経過がある。また、学校での様子を細かく連絡帳で知らせてほしいことと学年だよりもデジカメ

等を利用して視覚的効果の出せる物にしてほしいことも要望してきている。

(２) 対応

TEACCH PROGRAMの導入については、1年時教室の構造化から始めてみたが、クラス6名の生徒についてもそれぞれの障害や実態が違うので1年間続けてからさらに内容を検討し、小グループ編成から個別で対応するようにした。保護者も継続した指導を望んでいたので内容を大きく変えないようにして指導を行っている。保護者の考えとして日常生活の面の向上よりも認知面での向上を願い生活の中でやれることを覚え本人が落ち着いていられればということであるが、身辺自立にも目を向けての取り組みとして排尿時ズボンを降ろさないでチャックの開け閉めで行えるように日々取り組んだ。その結果現在は、一人でできるようになってきている。これからも身辺自立にも目を向けて取り組むことといろいろな人との関わりも必要になってくることを保護者に伝えながら取り組んでいきたい。